

十

官報

九月五日

七月二日

宗

丙午三月二十五日

立案 大正六年六月八日
決裁 大正 年 月 日

憲法會議

宮内省

事務官

爵位課長

仙

大臣



次官



元於鮮總督有方支部長官荒井
賢太郎四名特旨叙位ノ件

大正六年六月八日
臺帳記入三月三十一日官報報告済

宮内省

(四大)

宮内省

元朝鮮總督府度支部長官荒井賢太郎
外四名特旨叙位ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正

大正六年六月二十七日

大正

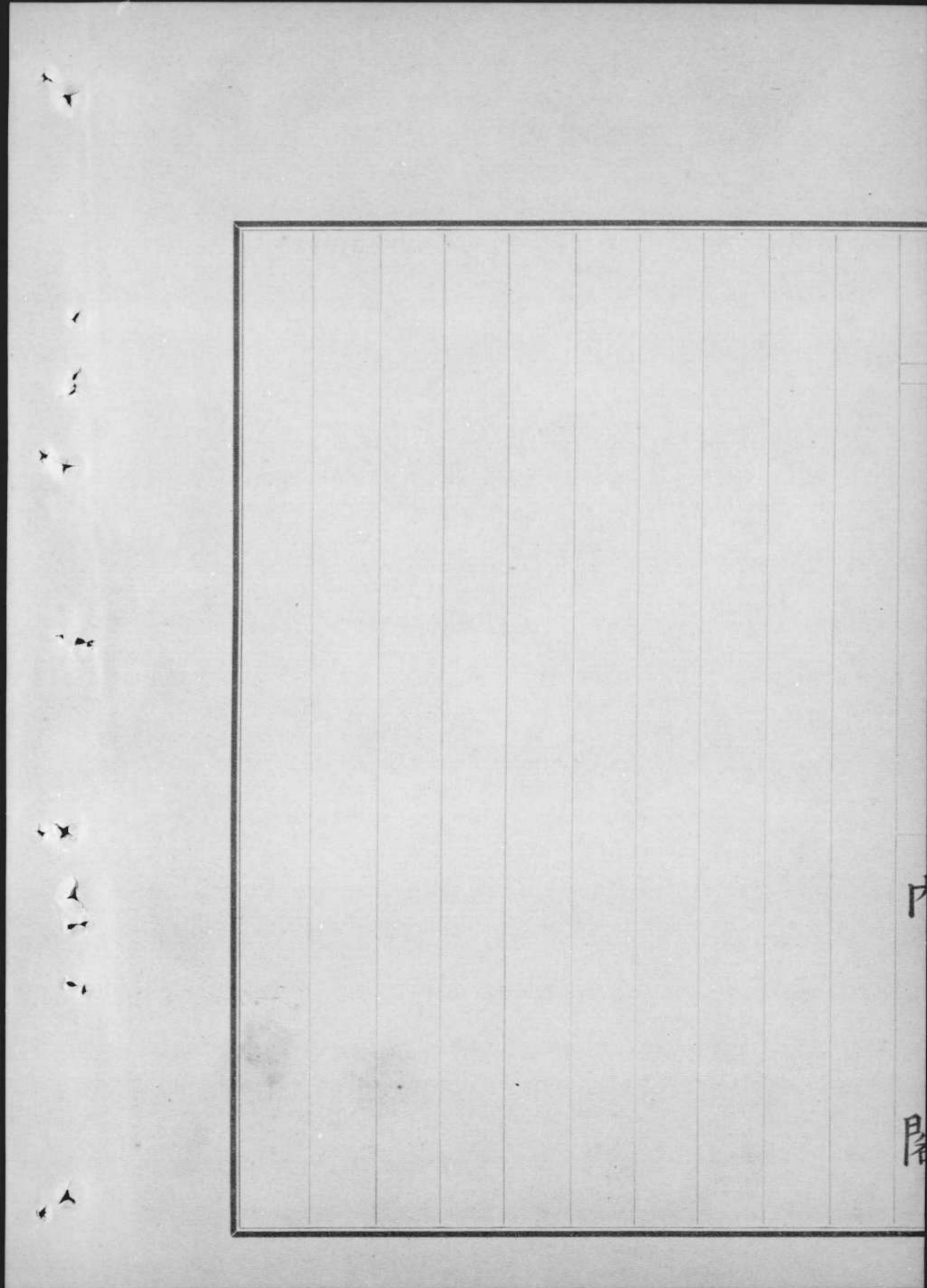
大正



元朝鮮總督府度支部長官荒井賢太郎
外四名特旨叙位ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク
大正六年六月二十七日
内閣總理大臣伯爵寺内正毅



めくれず



内閣書記官長 海外 二四九

大正六年六月廿七日

内閣書記官長

内閣總理大臣

内閣書記官長

正四位勲一等荒井賢太郎

同 勲二等池田十三郎

同 勲三等荒川巳次

同 勲三等鍋島桂次郎

海軍水路大監正位同 大後五郎

特旨ヲ以テ位一級被進

内閣

正四位勲一等荒井賢太郎

同 勲二等池田十三郎

叙 從三位

從四位勲二等荒川巳次

同 勲三等鍋島桂次郎

叙 正四位

正五位勲三等大後五郎

叙 從四位

六日付可

叙從三位元朝鮮總督府度支部長官正四位勲等荒井賢太郎
叙從三位元朝鮮總督府逓信局長官正四位勲等池田十三郎
右者孰レモ大正六年六月六日退官ノ者ニ候處
出身以來高等官在職十年以上ニシテ勤勞不
尠ニ付叙位進階内則第四條ニ依リ頭書ノ通
特旨ヲ以テ位一級被進度謹テ奏ス

大正六年 六月十九日

朝鮮總督伯爵長谷川好道



朝鮮總督府

正四位

元特命全權公使從四位勳三等荒川巴次

正四位

元特命全權公使從四位勳三等錫島桂次郎

右今般待命滿期、為退官仕候處、多年奉職
勤勞不貳者、付敘位進階内、則第四條ニ依リ
特ニ各頭書ノ通位一級進敘被仰出候様仕度此
段謹テ奏ス

大正六年六月二十六日

外務大臣法學博士子爵本野一郎



外務省

六〇号待

正四位

元特命全權公使從四位勳二等荒川巳次

正四位

元特命全權公使從四位勳三等鍋島桂次郎

右今般待命滿期、為退官仕候處、多年奉職
勤勞不訥者、付敘位進階内則第四條、依り
特ニ各頭書、通位一級進敘被仰出候様仕度此
段謹テ奏ス

大正六年六月二十六日

外務大臣法學博士子爵本野一郎



外務省

右今般待命滿期

海軍水路大監正五位勲三等大後五郎

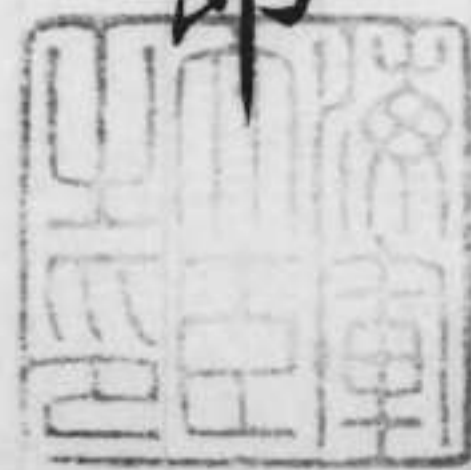
大正六年六月十九日後備役

叙從四位
右文武官叙位進階内則第四條ニ

依リ謹ミテ
奏ス

大正六年六月二十一日

海軍大臣加藤友三郎



海軍

裏面白紙

大正六年五月廿日

別紙 荒井賢太郎以下三名 教位
新總督 上奏書進達ス

ノ件

内務大臣男爵後藤新平



内閣總理大臣伯爵寺内正毅 啟

内務省

八機密送第九三號

元特命全權公使荒川已次外一名

位階進叙ノ件

元特命全權公使荒川已次外一名位階進叙ノ
件別紙ノ通致上奏候間可然御取計相成度
此段申進候也

大正六年六月二十六日

外務大臣法學博士子爵本野



内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿

外務省

海秘人第一八六號

大正六年六月二十一日

海軍大臣加藤友三郎



内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿

大後海軍水路大監ハ多年軍職ニ在テ克
ク其任務ヲ盡シ功績顯著ノ者ニ候處六
月十九日後備役被仰付候ニ付テハ特ニ
位一級被進度別紙上奏書進達ス

海軍